



### 「町政だより」に期待して

江別町議會議長  
福本重亀

「知らずむべからず、よらしむべし」と云う政治が、封建時代は勿論のこと、軍閥専横の過去を通じて長い間續いて、國民の多くは、「政治は「政められるもの」であるとして御無理御尤で片付ける習慣が其の政治意識の中に多分に残されているようである。一政治は國民の手で」と云う民主政治の今日になつても、國の政治はおろか我が町の政治にさえも依然無関心である事は洵に遺憾である。とは云うものゝ今まで町政がどのようにし、行はれているかと云

5月号 通巻1号  
毎月15日発行  
発行所 札幌郡江別町役場  
電話 (代表) 3番  
編集兼發行人 後藤邦義  
印刷所 江別印刷株式會社

### 昭和二十五年年度

### 町予算のあらすじ

助役 後藤邦義

豫算に盛り込まない政治は無い。随つて昭和二十五年に於ける町の當初豫算は本年度に於て實施しようとする、町の政治内容と性格を示すものであるから、

茲に其のあらすじを述べて、町民各位の理解と協力を切望するものである。  
豫算編成方針【歳出】  
第一に経費の節減を図つて町民負擔の増徴を避けた。然し節減のみ

を考へて、當面どうしてもやらなければならぬ事業を中止したり町將來のため、現在の町民に課せられた責任を回避することの無いように努めている。  
第二に町の實情に即した政治の費用を計上して、生きた政治を行ひ経費支出に無駄の無いように努めた。  
第三には綜合行政を行ひ町政の性格から、著しく一方に偏した跋行的豫算になることを避けた。  
第四には、當面の問題だけに止めず、町將來の發展となる基礎的な施設に對しても考慮を拂つている

豫算編成方針【歳入】  
歳出に計上した町政治に必要な費用を、現行の地方税法に基づいて徴税する一方、分限税、補助金等夫々の根據に従つて見積つた、而も

過大な見償りはしていないから、現在問題になつてゐる新地方税法が施行されて、之れに移行するような場合や年度半で緊急な事業のため豫算の追加更正を行うような場合でも其の財源を増税に俟つてはならないと思ふ。  
豫算額  
以上述べたような方針で編成議決された豫算額は左の通りである。

- 【歳入の部】
- 一、町税四七、四五五、七五三円
- 1 道税附加税
- 一九、五九六、七八三円
- 2 獨立税
- 一三、二九〇、一七〇
- 3 地方配付税
- 一四、五六九、〇〇〇
- 二、公營企業及財産收入
- 三三三、七六〇

### 發刊の言葉

町政の明朗化を希うて  
町長 古田島薰平

政治の要を「誰もが納得のゆく政治である」と云うことだと思ひます、よし、或る程度の重い負擔に苦しんでもそれが何の爲の苦しみか、無理算段して納めた租税がどのようにして使はれておるか、そうした事が町のすみずみにまで知れ返つてお互に納得のゆくような政治、こうした町政の運営を私は希うておりましたが、お互に時と場所とにおのづからの制限があつて町政をお預りする私共も町民の皆さまも思うように語り合う機会が無く何となしにつくりしな所があつた事は事實です。

「お互に語り合うこと」によつて「お互に知り合い」お互に知り合うことによつて、同心運結も出來て明るく住みよい町が出來るのであります。過去の當町にはそうした機会を作る何物も無かつたことを遺憾に思つておりましたが、幸に本年度から町議諸氏の理解ある賛同を得まして、町弘報機關として【町政だより】を毎月發行することに致しましたので、見らるゝ通りの月刊小紙面ではありますが之れによつて、町政運営のすがたを皆さんに知つて戴き、之れを中心に質疑應答で交されるならば「納得のゆく」町政に一步一步近づき得るものと信ずる次第で、少くからず期待を持つものであります、と同時に皆さんの直接間接の助言と御協力によつて本紙發行の使命をはたし度いと念願するものであります。

本紙發刊にあつて、町政の明朗化を希求して、一言御挨拶と致します。